



TITLE:

來年歸來する彗星

AUTHOR(S):

CITATION:

來年歸來する彗星. 天界 1934, 15(165): 94-94

ISSUE DATE:

1934-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/166943>

RIGHT:

ツエルナ | の百年記念

去る十一月8日はドイツ國の天文家として有名であつた Johann carl Friedrich Zöllner の生誕百年目の記念日で、獨國の學界では記念の催しが開かれた由、ツエルナ | の光度計、ツエルナ | の法則等々いろいろの場合に有名なツエルナ | は、歐洲人としては享年48歳といふ比較的に短かい一生涯であつたけれど、第十九世紀のドイツ學界には、天體物理學の開拓者として非常に著名な人であつた。生地はベルリンであつて、大學はライプチヒとベルリンと經て優秀な成績を示し、卒業後ライプチヒ大學の員外教授となり、次いで、1872年に其の大學の物理天文學の正教授となつた。同年、英國の Royal 天文學會の Associate に推された。彼は1865年以來大遊星の物理を研究し、其の構造に關する新説を發表し、又、木星や土星の雲霧帶の急激な變動を注意し、自ら熱心に之を觀察した。1869年二月6日に、かの佛國の Janssen や英國の Lockyer 等が平常日に太陽のプロミネンスを觀察する方法を完成しない前に、ツエルナ | は亦ザクセンの理學會の席上で同じ事を發表したが、良い器械が無くて、此の觀測を實行するに至らなかつた、ボツダムの天體物理天文臺長の初代をつとめた Hermann carl Vogel が此のツエルナ | の弟子であつた事實を思ひ合はせると、ツエルナ | が後年のドイツ學界のために如何に重要な地位を占めるかが了解される。——ツエルナ | は1882年四月25日に死歿した。

來年歸來する彗星

來年は1935年で、又々下の如き多數の週期彗星が近日點に歸つて來るから、觀測界を賑はすだろう。

星 の 名	この前出現時の符號	週期	近日點通過豫定
Reinmuth ラインム ト彗星	1928 I	又は1928 a 7.24年	1935年 5月 2日
Holmes ホ ムス彗星	1906 III	〆 1906 f 7.35	〆 7月末?
Schwassmann-Wachmann シワスマン彗星	1929 I	〆 1929 a 6.43	〆 8月末
Schaumasse ショ マス彗星	1927 III	〆 1929 g 7.95	〆 9月中旬
Comas Sola コ マス・ソラ彗星	1927 III	〆 1926 f 8.52	〆 9月末
Forbes フォブス彗星	1929 II	〆 1929 c 6.38	〆 11月中旬
Schwassmann-Wachmann シワスマン彗星	1930 VI	〆 1930 d 5.27	〆 11月末
Tempel II 第二テムベル彗星	1930 VII	〆 1930 f 5.17	〆 12月初旬
Taylor テ ラ 彗星	1916 I	〆 1915 e 6.76	〆 ?

このうさ、ラインム | ト星は既に去る十一月5日米國リク天文臺のジェフアス氏によつて發見された。〔花山急報119〕